

第 17 回日本インターネットガバナンス会議(IGCJ)レポート

2017 年 2 月 13 日

1. 会合の概要

- 日時： 2017 年 1 月 26 日(木) 18:00～20:00
- 会場： JPNIC 会議室
- URL： <http://igcj.jp/meetings/2017/0126/>

1.1. 参加状況

- 会場参加者数：23 名
- 遠隔参加者数：3 名

1.2. アジェンダ（発表者敬称略）

1. IGCJ の年次総括、これまでの IGCJ の振り返り
2. 今後の IGCJ について意見交換

2. 口頭での報告内容・質疑応答・議論内容

2.1. IGCJ の年次総括、これまでの IGCJ の振り返り

IGCJ を考える会メンバーの橘氏より、資料「IGCJ の年次総括」に基づき説明が行われた。

2.2. 今後の IGCJ について意見交換

今後の IGCJ の活動について「IGCJ が今後扱うべきテーマ」および「IGCJ に継続してほしいこと、改善してほしいこと」それぞれに関する議論が行われた。

2.2.1. IGCJ が今後扱うべきテーマについて。

Comment（以下：C.）

・スマホの普及などによりインターネットを使っている人が増えているので、技術者・専門家に限らず、インターネットガバナンスについて多くの人に興味を持ってもらいたい。

・IANA や ICANN 関連の話はインターネットを作ってきた人たちにとっては鍵となる話題だが、日常のレベルでインターネットを使っている人たちにとってはあまり頭に入っていない。

・「児童ポルノ」、「通信の秘密」、「インターネットにおける広範囲の監視」などのテーマは、インターネットを使う人にとっても身近で、これらのテーマが世界や日本でどう議論されているのかは興味をひくと思う。

- ・新しい人が参加することで新しい視点での議論ができるのではないかな。

C.

- ・IGCJを作ったベースとなったのは、インターネットを作ってきた人達で、そのような経緯から、これまでは、その人たちが分かるテーマを中心に議論している。
- ・一方、IGCJを考える会でもテーマの偏りについては議題として挙げられている。
- ・特定のテーマに関する専門家を増すのではなく、テーマに関心のある人を増やすのが重要。
- ・専門家同士だと内輪になって話が広がらない。
- ・それぞれが、関心のある分野で自分にとってどう関係するか考えられるようにしていきたい。

C.

- ・関心を持っている人が関心のあるテーマを話すことは重要。
- ・「インターネットガバナンス」の定義は、2005年のWSIS¹の際に非常に議論された。
- ・それまではICANNの管理体制のみを中心とした狭い議論だったが、それに留まらず、みんなでインターネットを育てていくために議論したいという想いがあった。
- ・これはIGFとしての定義だが、IGCJで議論される「インターネットガバナンス」もそういう見地で、何を日本で議論するべきかという話。
- ・インターネットのビッグユーザーであるビジネス界からの参加が得られない。企業にとってインターネットガバナンスがいかに重要か、徹底的に議論できる場が今まで無かった。
- ・欧米の企業は、IGFのような場に参加しIoTやビックデータなどの議論をしている。
- ・IGFに参加している欧米の企業に、どうしてインターネットガバナンスに取り組むか直接聴いてみる機会があったらどうか。日本支社の人が代理でもよい。

C.

- ・グローバルをみると、同一企業のいろんな部門の人が網羅的に必要なセッションにでている。

C.

- ・世代間のギャップの大きさを感じている。
- ・用語はついていけないが、自分自身はインターネットガバナンスに関しては強い関心を持っている。
- ・イギリスのEU離脱問題、トランプ大統領の施策などの問題に、インターネットがどのように関わっていくべきか考えなければならない。
- ・もっと教育の場にインターネットを考えてもらうべき機会があってもいいのでは。若い世代に、インターネットについて考える教育、啓発の機会があってもいいのでは。

C.

- ・最先端で、現場の事実に基づくテーマを引き続き扱ってもらいたい。本当にインターネットを作り上げてきた人たちが議論する場だと思う。

¹ World Summit on the Information Society

- ・ITU 協会では広い参加者を対象としたイベントも開催しているが、この場は必ずしもそうなる必要性はないように思う。

- ・特に、大学の学部生や院生に興味持って聞いていただくことに意味があると思う。そのために一般化する必要は無いと思う。

- ・IGCJ は、常に専門家の人に最先端の議論をキャッチアップさせてもらう場と理解している。

C.

- ・もともとこの場は技術コミュニティの人達が立ち上げたので、テーマが技術に偏っているかもしれない。

- ・他の機関やコミュニティとも連携をしたい。IGCJ の議論を持ち込むのがよいか、他の議論を IGCJ に持ち込むのがよいか、それを含めて検討したい。(考える会メンバー)

C.

- ・テクニカルな話をするのも大切。技術に明るい人たちが議論する場も作っていかなければいけない。

- ・例えば、ゼロレーティングの話が技術者が議論すると専門的な話になりがちだが、一方で、LINE モバイルが無料なのは何が問題なのか、大学生・高校生にきちんと説明できるようになる必要もある。

- ・テロ対策についてもなぜ監視を強めることが問題なのか説明が出来ないと、インターネットガバナンスの議論もエンジニアだけで終わってしまう。

- ・便利ならそれでいいのではという素朴な質問に、技術者も答えていく必要がある。

- ・インターネットを作った技術者の考え（インターネットの公平性、透明性など）を、一般の人は求めているかもしれない。

- ・わかっている人だけわかっているという状態から離れないと議論が広がらない。

C.

- ・単純に IGCJ の場に人を増やすのが目的かどうか考えなければならない。

- ・どんな疑問が世の中にあるのかを把握することは難しい。

- ・LINE モバイルなどは両親に説明してもらうことなのではないか。

2.2.2. IGCJ に継続してほしいこと、改善してほしいこと。活動を維持していくためにはどうしていけばいいのか。

Question (以下 : Q.)

IGCJ として掲げている目標と、IGCJ のあり方に関する過去のミーティングでの議論と照らし合わせて

- ・インターネットガバナンスに関わる国内外の意見募集をとりまとめて紹介することには、どの程度ニーズがあるのか。

- ・グローバルな場に対して提言を行う取り組みをするべきか。(IGCJ 事務局)

C.

- ・提言を行う際に、IGCJとして法人格をもたなくても支障がないのか。
- ・IGCJは緩い議論の場であることが大切だと思っており、企業に対してIGCJに参加する意義を必ずしも説明がつかないケースもある。
- ・法人格が必要なのか、その場合、法人として意見募集に対する意見を取りまとめる作業や負荷は誰が担当するのか。
- ・IGCJの究極系を考えるとどこを目指しているのかという疑問。

C.

- ・IGCJはコミュニティの議論の場としてやっている。
- ・現状IGCJとしての見解を採択する所までできておらず、仮にそうなると対応負荷の検討の方が多くなる。
- ・IANA監督権限移管提案に関する意見募集に対しても、IGCJを通じて集まった人たちの連名で意見の提出をしている。
- ・是々非々で考えているけど、IGCJに参加する皆さんが法人化するメリットを感じるのであれば、そう動くことになる。(IGCJ事務局)

C.

- ・結局発信していかないと、世界に対しても日本に対しても伝わらない。
- ・海外に対して日本のコミュニティとして意見を出していくことは今のIGCJの形でも対応できるが、国内で政府のパブリックコメントに意見提出できる組織として国内でプレゼンスをもっていくためには今の仕組みでは難しいと思う。

Q.

- ・そもそもIGCJにそういう機能が必要と思うか。(考える会メンバー)

C.

- ・どうやって意見を集約するのか次第ではないか。IGCJはオープンな場で、かつ参加人数も多いので、意見集約機能を持つことは難しいかもしれない。
- ・一方、個人的にはIGCJは団体としてそういう機能を持ったほうが良いと思う。持たないと日本の中で発言権が得られにくい。

Q.

- ・そもそもIGCJの目的は何なのか。何のために集まっているのか。
- ・グローバルなIGFとして議論しているときに、日本のインターネットコミュニティの考えを問われたら、それを投げ返せるグループがあったほうが良い。
- ・Japan-IGFも日本のコミュニティの意見を集約しきれるとは言えないところがある。そういったものをちゃんと作っていったほうが良いと思う。

- ・この場が何を指しているのかももう一回議論しなければいけない。
- ・12月に国際公約で日本には1つのインターネットガバナンス活動があると宣言したわけだから、それに向けて作業していくべき。

Q.

- ・IGCJの法人化の必要性を確認するコメントがあったが、確かに政策提言のような固い意見募集の場では所属がはっきりしていないと、意見を提出しても真剣に受け止めてもらえない。
- ・一方で、IGFのような場は有機的で、コミュニティを重視しているため、IANA監督機能移管に向けた提案への意見提出やグローバルIGFのような場等の意見募集に対しては、法人格を持たずにIGCJのような日本のコミュニティからの意見というかたちをとって問題ないと思われる。
- ・どちらの方向を目指すのか、両方必要なかはきちんとした整理が必要。
- ・IGFでは決議しないことにより、むしろ本音ベースで議論できる良さもある。
- ・IGCJが法人格を持ち、政策提言のような場に意見提出を行うと今のIGCJの性質は変わる。
- ・それを踏まえて、IGCJに政策提言をするような場を求めるのか意見をききたい。

C.

- ・IGCJの意義は、ヘテロ（異なる立場の人たちが集まっている）なコミュニティだと思う。緩さがあるからこそ、誰も求めていることでも自発的に出せる意見もある。
- ・一番新しいことを知っている人がこの場で直接話し、皆の知識を深めていくという機能もある。
- ・ヘテロな場では、みんな意見が違うから絶対に揉める。あえて揉めて議論する場であることが重要。その時に、壇上とフロアではなく、フロアの中でディスカッションできるのもIGCJ。
- ・議論した結果、皆でコンセンサスが取れるのであれば、誰も明示的に意見募集として求めているなくてもそれを発信するのはいいと思う。

C.

- ・結局IGCJは何のための場なのか、という議論に行く。
- ・アウトプットは持たず、失礼な言い方だが色々な人たちが雑談をし、盛り上がった意見を持ち帰り別のコミュニティで生かされるのなら、IGCJはそういう場でもいいのかという議論になる。

C.

- ・IGCJはあえて決議するのではなく、課題を共有、議論してそれぞれ持ち帰って対応するのでよいとの整理に、ここでの議論を聞きながら納得した。
- ・会社に居るとその会社の中でしか分からないことが多いが、IGCJでいろんな考えの人の意見を聞いて、それぞれが持ち帰って行動すればよく、そのように議論できる場がいいと思った。

C.

- ・雑談をする場という表現は乱暴すぎるが、IGF自体が結論を求める場ではなく、異なる背景を持った人が話し合う場である。

- ・技術者と市民団体、法律家が話すことで、普段気がつかず、注意しなければいけない点に気づく。
- ・関わっている分野や役割が異なる人たちに集まることで、インターネットという社会で気がついてないところに気がつく事に意味がある。そして、その分野・役割の人が持って帰って、関わっている範囲の中で議論しアウトプットすればいいのではないか。
- ・IGCJ がパブコメに対して意見提出を行うことは全く想像ができず、ここに来たそれぞれのステークホルダーが新しい発見をし、それを自分の組織に持ち帰るきっかけとなる場と考える。

C.

- ・ **Informed decision**(十分な情報に基づいた決断)を得るのがマルチステークホルダーによる議論の場。決断はそれぞれが持って帰って行くべきで、どのような決断をするかは自由。
- ・ グローバルなインターネットが既にマルチステークホルダー型で運営されているので、日本もそこは避けられない。そう意味で **Informed decision** を得るための場が必要だと思う。

C.

- ・インターネットが複雑になったがゆえにマルチステークホルダーで、取り扱うテーマごとの専門家が、頭脳をぶつけ合って議論している。
- ・インターネットポリシーのそれぞれのテーマは物凄く重たいテーマで、専門家たちは非常に質の高い議論をしているので、雑談という表現は不適切。
- ・グローバルサウスの人たちのレベルが物凄く上がっている。
- ・日々の生活も苦勞している中で、インターネットに希望を見出し、グローバルな議論に加わっている。そこに日本も付いていかなければいけない。

C.

- ・ IGF のフォーラムは対話の場という理解。対話は、単に情報交換だけではなく自然と意見形成が出来上がっていくことも含む。
- ・ IGF は、話だけして何も決まらないのかと言われたがあったが、東日本大震災の災害対策、情報共有手段を海外に発信した例もある。
- ・ こういう意見を発信することは海外からも求められており、決議をしなくとも日本からベストプラクティスの共有等、貢献できることはある

C.

このような緩やかな検討・対応の進め方は「**Coordination**」とも言える。

C.

IGCJ の運営については常に意見をいただきたいと思っている。今後とも引き続き、ご自身の持っているお題に基づいて参加し、発言していただきたい。(考える会メンバー)

C.

- ・全く関係ない専門家（犯罪、金融、災害など）を招き、その専門家からみたインターネットの話を聞けたらよい。
- ・ビジネスからの参加が少ないという意見については、アメリカでは、ポリシーのシンポジウムが沢山開催され、そこでは必ずビジネスの話がある。
- ・アメリカは新しいことを検討するとき、ビジネスもテクノロジーも社会団体も集まってポリシーを話し合って決めるが、日本は中央官庁と学者が集まって決める傾向がある。
- ・どっちがいいかということではないが、ここで何をするかという目的によって変わってくる。

C.

- ・この IGCJ の場を今後も是非続けてほしい。参加者として考える会のみなさんの尽力に感謝。

2.3. 次回の日程などについて

- ・次回は、3月23日（木）JPNIC 会議室で開催
- ・今後は基本的に奇数月の第四木曜日に開催予定
- ・IGCJ を考える会メンバーは常に募集している